

12・9「学費の公私間格差・自治体間格差是正を求める院内集会」 その2

19名の議員が「学費の無償化」私学振興を「超党派」でめざすと宣言

12月9日(金)、東京・国会議事堂近くの砂防会館会議室でおこなわれた「学費の公私間格差・自治体間格差是正を求める院内集会」には、「院外」であるにもかかわらず22名の国会議員が足を運んでくださいました。高校生の訴えを聞いてあいさつに立った19名の議員は、口々に子どもたちの置かれた状況や苦勞、切実な思いを受け止め、教育予算増、格差解消、教育無償化にとりくむ決意を表明しました。

ご挨拶くださった国会議員のみなさん



水野素子議員 小川淳也議員 梅谷守議員 伊藤岳議員 西村智奈美議員 高橋千鶴子議員 大石あきこ議員 本村伸子議員 阿部弘樹議員 高木まり議員



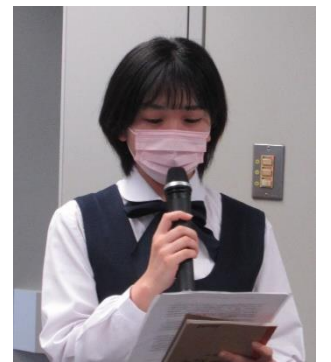
松木けんこう議員 玉木雄一郎議員 森山浩行議員 吉良よし子議員 宮本岳志議員 柴山昌彦議員 福岡資麿議員 三宅伸吾議員 今枝宗一郎議員

(以下、あいさつ要旨)

「中2と高1の子どもを育てている。教育を無償にしていきたい」(水野議員)、「物価高の影響もある。子どもたちに借金を背負わせてはならない」(小川議員)、「新潟の公私格差をなくす動きをしていく」(梅谷議員)、「自分も子どもの学費で苦勞した。私学の高負担をなくしたい」(伊藤議員)、「私学助成は国の責任で、優先順位も上げる」(西村議員)、「岩手の私フェスに参加した。三者で運動に取り組んでいるのはすばらしい。青森、岩手の私学の学費問題を改善したい」(高橋議員)、「数字の背後にそれぞれの家庭の思いがある。大きく制度を変えていく」(大石議員)、「高校生の参加を重く受け止めたい。教育予算を増やしたい」(本村議員)、「大阪での無償化を全国へ広げていきたい」(阿部議員)、「3人の子どもが受験生。兄弟の心配をせず誰もが望む選択ができるようにしたい」(高木議員)、「私学助成が減って学校法人の経営ができない事態をなんとかしたい」(松木議員)、「少しずつ変わってきている。自治体間格差解消や所得制限撤廃には教育国債も考えたい」(玉木議員)、「教育は社会全体の問題。国の政策として変えていくことが必要だ」(森山議員)、「親に申し訳ないと思わせ、夢をかなえられない、という現実を変えたい。軍事費2倍は違う」(吉良議員)、「私学助成は増えていない、請願が採択されない。超党派で請願採択を実現させたい」(宮本議員)、「教育予算は究極の先行投資。大人になって暮らしを支えてくれる」(柴山議員)、「学費負担は大変。私学助成の拡充をがんばっていきたい」(福岡議員)、「公私格差の是正は必要。3人の子どもを育てるのに苦勞した」(三宅議員)、「愛知の私フェスを自分も経験して国会議員になった。720万円まで無償をもっと上げたい」(今枝議員)

高校生と父母の語り この声・この思いを国会に届けよう

居る国会議員を前に、愛知・椋山女学園高校の垣田さんが発言しました(写真右)。入学以来ずっと続いたコロナの制限、ふとフェスの掲示を目にして、自ら加わった高フェス実行委員会、そこで得た学びと経験、そしてかけがえない仲間の存在。自らの歩みと私学助成の意義を明確につなげて語った発言は、国会議員の理解と共感を呼ぶものでした。



国会議員のあいさつに続いて、さらに



(左)神奈川・旭丘高校生徒会 (右)北海道の高校生



高校生や父母の発言が続きました。神奈川・旭丘高校生徒会総務のメンバー4人は「権利としての私学助成」の学習を続けてきたが、「もっと多くの人にこの活動を知ってもらいたい」。北海道からは北星大附属と北星女子の男女2人がそれぞれの経験や思いを語りました。父母では愛知父母懇を代表して柴田さんが、「1000人規模の希望プロジェクトを大村知事の前で披露した」など愛知の活動を紹介。佐賀父母懇の古賀さんは8月の対県要請に参加したと報告し、多子世帯への補助や公私間格差の解消を訴えました。



(左)愛知父母懇のみなさん(右端が柴田さん) (右)佐賀の古賀さん

